

【図画工作・小2・「けいとワールド」】①

育成を目指す資質・能力（題材の目標）

毛糸の形や色などを基に造形的な活動を思い付き、どのように活動するかについて考え、結んだりつなげたりするなど、手や体全体の感覚を働かせて、活動を工夫してつくとともに、造形的なよさや面白さ、表し方などについて、感じ取ったり考えたりし、楽しんで活動したり鑑賞したりする活動に取り組む。

ICT活用のポイント

- ・つくる過程（表現する場面）における大型モニターを活用した俯瞰視点の作品鑑賞
- ・完成した作品の写真撮影及び大型モニターでの共有

【出会う】

材料や空間を基に造形的な活動を思い付く

【つくる】

材料や用具と関わり合いながら、作り、作りかえ、つくることを繰り返す。

【振り返る】

材料や用具と関わり合いながら、作り、作りかえ、つくることを繰り返す。

事例の概要

【事例におけるICT活用の場面①】

【つくる過程】

- ・毛糸を教室内に自由に張り巡らせ、毛糸の線が交わった形や垂れ下がった様子など形の変化を楽しみながら造形活動を行う。その際、児童の活動の様子を天井から撮影し、大型モニターに映し出し、俯瞰した視点で作品見ることができる環境設定を行い、新たな毛糸の結び方やつなげ方を思い付けるようにする。

【事例におけるICT活用の場面②】

【振り返る過程】

- ・完成した作品の気に入った部分を児童各自がICT端末で撮影し、その画像を学級全体で共有し、様々な表現のよさや面白さを味わう。

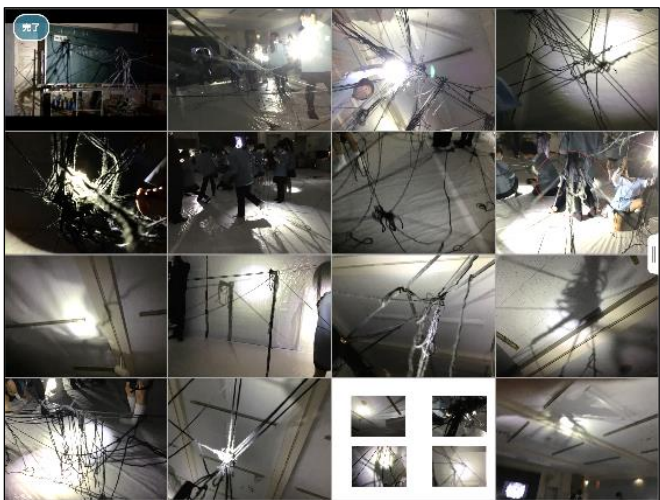
【図画工作・小2・「けいとワールド」】②

【事例におけるICT活用場面①】



俯瞰した視点の映像を映す

【事例におけるICT活用場面②】



多様な表現を児童相互で見合う

【つくる過程】

ICT活用場面①

俯瞰した視点で作品見ることができる環境設定を行い、新たな毛糸の結び方やつなげ方を思い付けるようにする。

＜児童や教師にとってのICT活用のメリット＞

(児童)

俯瞰の視点は児童の目線では見られない高さの様子を映し出すことができ、自分と離れた友達の活動を見たり、真上から見える毛糸の形や動きなどの新たな造形的な価値に気付いたりすることにつながる。

【振り返る過程】

ICT活用場面②

完成した作品の気に入った部分をタブレットで撮影し、互いに紹介し合う。

＜児童や教師にとってのICT活用のメリット＞

(児童)

作品を見合うことにより、表現の多様性に気付き、見方や感じ方を広げることにつながる。また、作品の記録を蓄積することにより、自己の学びの変容に気付くことができる。

(教師)

教師機のICT端末に提出された画像を確認することで、児童の活動や思考を把握し、評価や指導に生かすことができる。

【活用したソフトや機能】

ICT端末のカメラ機能…作品の静止画を撮影

学習支援ソフト…児童が撮影した写真を共有